

トピックNEWS

NPO法人 吹田ビジョン21 理事長 瀧川紀正

エスコタウン駐輪場 オープン

7月1日に、江坂の中心部、エスコタウンに駐輪場がオープンしました。吹田市は2年前からエスコタウンの歩道バリアフリー化整備をすすめてきました。

これに合わせて、江坂企業協議会とも縁の深い、NPO法人「吹田・江坂ビジョン21」が車輪止め、精算器などの駐輪器具の整備を6月末で終え、7月より運営を開始しました。



エスコタウンは、北大阪急行電鉄江坂駅西側、吹田市豊津町12号線の愛称です。南北約250メートルにわたるショッピング街で、大型の商業施設、飲食店が建ち並びます。

吹田市はこれまで、三ヶ所の市営駐輪場(計4605台)を設け、江坂駅周辺を自転車等放置禁止地域にしていました。

エスコタウンは多くの買い物客でにぎわう場所なのですが、そのため、路上への長時間の駐輪が多く、景観や交通バリアフリーへの問題が長年、深刻化していました。

これらの問題の解決のために、5年前、平成18年10月1日から一ヶ月間、社会実験が行われ



ました。これは、吹田市や地元商店会、自治会、江坂企業協議会などでつくる、「吹田駅西地区交通環境改善協議会」が国土交通省の支援事業に名乗りをあげ、実施したものでした。実験開始に先立ち、放置自転車が一齐に撤去・移動され、エスコタウン内に13ヶ所、450台分の仮設駐輪場が設置されました。期間中、買い物客の自転車を同駐輪場に整理し、駅利用者には市営駐輪場に誘導しました。

こうした、放置自転車への取り組みは、実験終了後も行われてきました。

早朝から開始された、7月1日のオープニング式典は、あいにくの雨でしたが、井上哲也吹田市長もご出席ください、「この駐輪場での取り組みがモデルとなって吹田全体へと広がっていくようご協力をお願いします」とのご挨拶をいただきました。



今後もなお、お客さんを江坂の街に受け入れる体制を整えながら、江坂の街の発展と美観の維持に会員企業の皆様のご理解とご協力をお願いします。

駐輪場は、自転車453台、ミニバイク21台が駐輪可能。

利用料金は、はじめの2時間が無料、以降2時間ごとに自転車は100円、ミニバイクは200円が加算。ただし、いずれも1日の最大料金は500円。

吹田にぎわい観光協会 理事長 瀧川紀正

リオちゃん 豊津公園へ

江坂駅の北西、駅から1分の距離にある豊津公園に新しいモニュメントができました。

「リオちゃん」はもともと、吹田市芳野町のレストラン「カーニバルプラザ」の看板として岡本太郎氏がデザインを手がけ製作したものでした。

「リオちゃん」は、リオのカーニバルにちなみでの愛称です。「カーニバルプラザ」のリオちゃんです。



岡本太郎氏は、大阪万博のシンボル「太陽の塔」の作者としてよく知られていますが、テレビのCMでかつて「芸術は爆発だ」というフレーズを覚えていらっしゃる方も多いかもれません。

リオちゃんは、直径約5メートル。大きな目が描かれた顔の中央に青い稲妻型の模様が走り、周囲には太陽の光のような装飾があしらわれています。

約24年続いたこのレストランが2007年9月末の閉店に伴い、レストランの建物とともにリオちゃんも撤去され、吹田市に寄贈されました。

撤去後、大阪万博の回顧展「'07 EXPO '70-わたしたちと万博」が吹田市立博物館で開催され、同展で展示されることになりました。ところが、リオちゃんが大きすぎて名神高速道路のトンネルを通ることができず、手前の駐車場に設置され、長らく来



館者の出迎え役を務めてきました。

リオちゃんを、江坂にもどす取り組みは、吹田商工会議所の60周年記念事業の一環として、また、吹田西ロータリークラブの30周年事業として後押しされました。

3月、リオちゃんは、吹田市立博物館から修復のため工場に運び込まれました。

看板の裏側に鉄板を打ち付けて補強、表面の塗装もレストラン営業当時の写真を参考に塗り直されました。

5月25日、豊津公園で多くの関係者が見守る中、井上哲也吹田市長、寺西重博吹田商工会議所会頭、阪本勝彦吹田西ロータリークラブ会長、瀧川紀正吹田にぎわい観光協会理事長の4人がロープを引いて除幕式が行われました。

今後は江坂のまちの再活性化のシンボルとなってくれる事でしょう。

